

■南部アフリカ：世界の HIV 感染者数 ≒カナダの全人口

～今春、現地を訪れた鄭恵梨看護師（大阪赤十字病院）が報告します～



現地を視察する赤十字チーム。右から国際赤十字・赤新月社連盟ヘイディ・イソハンニ保健担当、日本赤十字社鄭恵梨看護師、菅原直子看護師長、他3名はマラウイ赤十字社の職員とボランティア。（マラウイ）

世界の HIV 感染者の総数は約 3,670 万人。これはカナダの人口※¹に匹敵します。そして、世界の 15～49 歳の HIV 有病率ランキングの上位 9 位※²はすべて南部アフリカ地域の国々です。

日本赤十字社は、2003 年から南部アフリカにおける HIV 感染症対策に焦点を置き、近年は同地域のうち 5 カ国（ナミビア、マラウイ、スワジランド、南アフリカ、ザンビア）を、国際赤十字・赤新月社連盟を通じて支援しています。今回は、そのうち訪問した 2 カ国（南アフリカ、マラウイ）の状況をご紹介します。

■ HIV 感染症対策でヤギ！？

世界の中でも最も貧しい国のひとつ、マラウイ。

タバコやトウモロコシなどを栽培する農業が主要産業の国ですが、ここ数年の干ばつで、人々の生活はさらに逼迫しています。



タバコの葉の栽培（マラウイ）



ヤギの小屋。小屋の 2 階に家畜が住み、糞が 1 階に落ちて肥やしを作る仕組み。糞が 1 階に落ちるため、2 階は衛生的である。（マラウイ）

マラウイ赤十字社は、HIV が原因で働き手を失い、貧困となった世帯を対象にヤギを提供する「Goat pass on（ヤギの受け渡し事業）」を行っています。ヤギを受け取った人は、ヤギを交配させて増やします。赤ちゃんヤギが生まれると、お母さんヤギを次のメンバーに渡します。このように、ヤギの数を増やし、地域でヤギの所有者を増やします。ヤギの肉を販売できるようになるほか、その糞も肥やしとして利用できます。そのため、畑での余剰作物が増え、肥やしや余剰作物を売ることで、現金収入を得ることができ、生計の安定に繋げることができます。

※¹ 外務省 HP によれば、カナダの人口は 3,515 万人。

※² WHO の 2016 年の統計データ (<http://apps.who.int/gho/data/node.main.622?lang=en>) によれば 1 位スワジランド (27.20%)、2 位レソト (25.00%)、3 位ボツワナ (21.90%)、4 位南アフリカ (18.90%)、5 位ナミビア (13.80%)、6 位ジンバブエ (13.50%)、7 位ザンビア (12.40%)、8 位モザンビーク (12.30%)、9 位マラウイ (9.20%)



移動式 HIV 検査。プライバシーを守るため、テントの中で検査をします。検査結果も、この中で知らされず。(南アフリカ)

■ 移動式 HIV 検査

新規 HIV 感染者数が世界で最も多い国は、南アフリカ^{※3}。

南アフリカ赤十字社は月曜から金曜まで、毎日場所を変えながら、人々が集まる場所に赤いテントを立て、移動式 HIV 検査を実施しています。南アフリカでは、近所のクリニックで誰でも HIV 検査が受けられます。しかし、周りの目を気にする若者は、クリニックよりも少し家から離れたところで実施される移動式 HIV 検査を好む傾向があります。プライバシーを保つために、実際の検査はテントの中で行われます。

検査結果が出るまでおよそ 10 分。その間も、貴重なカウンセリングの時間です。HIV に関する正しい知識や安全な性交渉について、カウンセラーから指導を受けられます。

■ HIV 陽性とわかったら・・・

「陽性」の結果が出た場合、多くの人が無言として言葉を失います。少し時間が経ってから「実は心あたりがあったんだ…」と告白する人もいれば、「もう一度、検査してほしい」という人もいます。

「何も症状がでないのに、HIV 陽性だと分かって、しばらくは病院に行かない人が多いです。近所の人から差別されるのではないかとこの恐怖心もあって、HIV に対する偏見が治療の遅れや中断に大きく関係しています。だから、結果の告知後も、必ず陽性者に対してフォローアップを行っています」と、カウンセラーは話します。

■ HIV 問題の解決のために

HIV の感染予防のためには、保健や医療的な介入が不可欠ですが、それだけでは不十分です。貧困が原因で、売春をせざるを得ず HIV に感染してしまう少女たち。教育を受けられないために、字が読めず知識もなく感染予防の方法を知らずに感染してしまう人々。HIV 問題を解決するためには、人々の生計を安定させる生計支援や HIV 拡大を防ぐための教育など包括的な支援が必要です。

今後も日本赤十字社は、HIV 問題を解決するために、生計支援や就学支援を含めた包括的な支援を継続します。



南アフリカ赤十字社のエイズ孤児も所属するキッズクラブ（学童保育）の子どもたちとふれあう鄭恵梨看護師（南アフリカ）

^{※3} WHO の 2016 年の統計データ <http://apps.who.int/gho/data/node.main.HIVINCIDENCE?lang=en>

～今回のニュースはいかがでしたか？ご意見・ご感想をお待ちしております～

★
大募集！
★

良かった・もっと知りたいテーマや記事、改善してほしい点など下記アドレスにお寄せください。
ご意見・ご感想をいただいた方の中から抽選で毎月 1 名様に赤十字グッズを差し上げます。
いただいたご意見・ご感想は今後本ニュース内でご紹介させていただく場合があります。

☆☆ 日本赤十字社国際部 kokusai@jrc.or.jp ☆☆